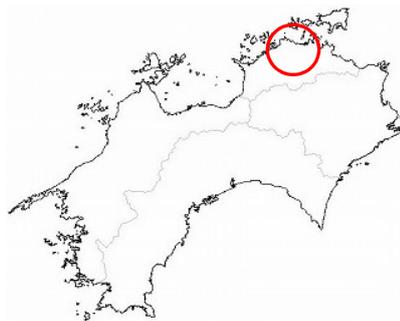


# すぽっとライト

NO.55

四国運輸局では、公共交通・観光業者や利用者の方へのインタビューを行い、貴重な意見や提言をいただいております。

今回は、香川県高松市でタクシー業を中心に地域密着型企业として成長を続ける、平成レッグス株式会社の住谷幸伸社長にお話を伺いました。



香川県 高松市



御社では、人員輸送だけでなく、高齢者の病院や買い物でのサポートも担うシルバーサポートタクシーを導入し、女性乗務員を積極的に採用していらっしゃいます。きっかけを教えてください。

当社は5年ほど前から、高齢者を対象としたシルバーサポートタクシーを始めました。この取組を始める前のことですが、朝の時間帯、電話でご依頼があっても断ることが多かったんです。車（タクシー）はあり、お客様もいる、しかしドライバーが足りなかった。なので、私自ら運転しました。ドライバーとして車を走らせていると、100mの距離が移動できない、家の戸口まで迎えに行って病院の入口まで送らないと病院へ行けない、そんな高齢者が地域に大勢いるということがわかったのです。これまで移動サービスだけを提供し



平成レッグス株式会社  
住谷幸伸社長

てきましたが、これからは、家に入りタクシーに乗せ、病院の受付まで見守る、スーパーで買い物を手伝う、そんなサービスを付加価値としてつけようということから始めたのがシルバーサポートタクシー事業です。

その際に直面したのが、ドライバー不足の問題です。東京での雇用対策セミナーに参加した際、幼い子どもがいて働きたくても働けない女性のために、保育園を作るというアイデアを得ました。働ける環境をこちらが作ることで、その女性たちが日本の労働力となる。子育て中の女性を雇用するべく、当社で保育所を作ろうと計画しました。平成28年のことですが、その当時、私は香川大学の大学院で MBA（経営学修士）の勉強をしておりました。社会科学の授業の中で、高齢者のお出かけ支援という内容で事業計画を練りました。マーケティングや統計分析なども行い、今のシルバーサポート事業に繋がったわけです。

そして、ちょうどその頃、待機児童の問題を解決すべく、国が企業主導型保育事業を始めたのです。この事業は、施設を建てる際だけでなく、運営にも民間保育所並の助成金が出る手厚いもので、企業側にとって非常にありがたい制度でした。こうして開園したのが、0・1・2歳児対象の『さくらの杜保育園』で、企業主導型保育所の



『さくらの杜保育園』

の香川県第一号となりました。まさに計画中の事業であったため、国の制度発表があってから半年で参入することができたのです。子育て中のお母さん大募集とチラシを出し、4人の女性ドライバーを採用しました。保育園の経営については当初、運営は専門知識を持っている会社にアウトソーシングしました。乗務員だけでなく地域のお子さんたちも入園可能です。3年間のアウトソーシングでこちらも勉強し、ノウハウを蓄積しました。そのうち街中の瓦町フラッグに保育園を作ってくれないかと依頼がきまして、2年前に高松市の認可保育園『瓦町FLAG 保育園』を始めました。この2つの保育園はともに大変順調で、満員が続く人気保育園に成長しています。タクシーの売上はこのような社会状況で落



食の大切さも伝えています

ち込みましたが、保育園の経営状態はタクシー事業を支えるまでに成長しました。

この取組みにより、平成30年度の経済産業省のダイバーシティ経営企業100選として表彰され、また、香川県からも先進的ビジネスモデル2018の優秀賞として表彰されました。保育園の運営についても、県内初の企業主導型保育事業として四国新聞に載せていただきました。

振り返ってみると、保育園を開園していなければ、会社は大変なことになっていたかもしれません。当初の目的のシルバーサポートタクシーも頓挫してできなくなっ

ていたと思います。積み重ねていった結果、高齢のお客様への対応、働かなくても働けない女性の雇用、子供の入園、我々企業の人材確保ができました。利用する人に良し、企業とそこで働く人に良し、社会的にも良し、三方良しというわけです。



**新型コロナウイルス感染症の影響は大きかったことと思いますが、そんな中で2020年には緊急支援プロジェクトを実施されていらっしゃいます。**

当社でもコロナの影響は大きかったですね。それを助けてくれたのが保育園事業でした。緊急支援プロジェクトは、外出できなくなった地域の方のお手伝いとして実施しました。買い物リストと購入費をお預かりして、料金を1回500円のワンコインに設定し、お買い物をしてお届けしますという企画でした。

シルバーサポートタクシーを続けていく中で、円滑なコミュニケーションの確保など接遇向上を目指し、ユニバーサルドライバー研修を行っています。お客様の中には、障がいをお持ちの方もいらっしゃいます。研修のテキストを使用し、障がいの特性やサポート方法について学んでいます。ご利用のお客様の要望と

しては、やはりショッピングが多いですね。



新型コロナウイルス感染症の水際対策で停止していた外国人観光客の受け入れが、6月から再開されました。御社は観光事業にも力を入れていらっしゃいます。インバウンド対応の取り組みについてお聞かせ下さい。

香川県は魅力的なところだと世界的にも評価が高い。災害も少なく、最近はあるような水不足もなくなった。関西圏にも近く、移住率も高い非常に住みやすい県になったのではないのでしょうか。アフターコロナでこれからどういう風に盛り上げていくか、人口減に歯止めがかからない四国が最終的に生き残るには、観光しかないとは私は考えています。いかに入込数を増やして活性化していくかが課題ですね。

高松は、LCCの発着が他県に比べて多いです。今はこのような状況で運航できていませんが、ソウル、上海、香港、台北との空路を持っており、LCCのハブ的な役割を果たしています。とはいえ今まで観光客は、どちらかというところまず大阪・京都・東京へ流れていました。しかし観光客は次第に都会に飽きて、次はきっと地方に来る。観光地は人工的に作るものだと思います。瀬戸内海のような自然の観光も大事にしないといけないですが、色々と仕掛けを作っていくことが必要です。今までは、高松駅・高松空港からホテル・観光地まで大型バスで受け入れていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、家族単位など小さなグループ旅行が好まれ増加している。それに対応できるのはタクシーです。今まさにタクシーが求められていると思っています。



高齢化が進むにつれ、ファーストワンマイル、ラストワンマイルを担う地域の公共交通機関であるタクシーの需要は増え、ますます重要な役割を果たしていくと思われませんが、社長のお考えをお聞かせ下さい。

地域の高齢者の中には、若い人たちの常識では考えられないような短い距離を移動できない方たちがいます。実際に自分で運転したことで、我々タクシー会

社の仕事はなくてはならないものであると確信しました。その方たちは、駅や停留所まで一人で行くことができないので、鉄道やバス路線があるにも関わらず利用することができません。電車やバスの運転手さんが、様々なお客様に合わせて個別対応をするには限界があります。しかし、タクシーのドライバーにはそれができます。日本が超高齢化社会を迎え、免許返納により高齢者の足が失われる中で、面的移動・個別対応ができ、細やかなサービスが提供できるのはタクシーしかないと思っています。



**差し支えなければ、今後の課題や計画、重点的に取り組んでいきたいとお考えの事業について教えてください。**

当社では、多様な働き方ができる取組をしていこうと考えています。社会的課題をソーシャルビジネスで解決するというのが今のビジョンです。社会にはいろいろな問題がありますが、そういった問題は今まで、行政やNPO法人に頼る傾向が日本にはありました。そういった団体は非常に貴重ではありますが、持続性という点においては課題が残るように思うのです。リタイア後に経験を生かしてNPOを立ち上げ、社会のために活動する様々な素晴らしい団体が全国各地にあり、無給で取り組んでいる場合もあります。ですが、その方たちが活動できなくなった時にどうするのか。若い人たちが引き継いで収入の無い状態で活動を続けていくことは厳しいように感じます。良い活動が潰れてしまうこともあり得ますから、収益は出さないといけないのです。収益を出すことによって、次のステップを踏んでいける。そこで働く人々の雇用を守ることができ、若い人たちも集まってきて人材の確保に繋がる。利潤を求める会社組織でも社会的課題を解決することができるかと私は考えています。当社はそういったソーシャルビジネスに取り組み、社会的課題を解決していく仕事をしていきたいのです。

私は昔、カマタマーレの前身チームでプレイしていたサッカー選手で、元アスリートなんです。現在は、県のスポーツ協会の役員をさせていただいております。私の娘も国体出場の水泳飛び込みの選手ということもあって、当社では10年ほど前から体操教室を運営しています。前回りや逆上がりができないといった、

運動に苦手意識をもつ子供たちを主な対象とした体操教室です。この体操教室を生かせる取組みということで先日スタートしたのが、運動療育に特化した『児童発達支援・放課後等デイサービスとわね』です。

きっかけは、2021年11月の北海道への視察でした。それより以前、企業主導型保育事業について学びたいと全国から30社ほどのタクシー会社が当社に視察に訪れていたのですが、その中の1社が視察後に、地元帯広で保育園を開いたのです。その後が気になり、コロナが落ち着いていた時期に帯広まで行ってみました。そこの社長さんは私と同じく新しいことにどんどんチャレンジする人で、保育園経営に取り組む中で、障がい児の発達支援事業をスタートさせていたのです。発達支援施設は、帯広で3つ、旭川で2つ、計5つも作られていました。比較的軽度な障がいを持つ子供たちをバックア



『サンハート体操教室』



『放課後児童クラブ にじいろキッズ』

ップする取組みで、コンサルティング会社の指導を受けながら運動療育をやっているという話でした。今度は私が勉強させてもらう番でしたね。当社には運動を教える経験が既がありましたので、帯広よりも更に良い環境にあると思いました。以前から当社の体操教室には障がい児クラスがあり、すぐにでもカリキュラムを組める状況だったのです。運動療育の開始に合わせて学童保育施設も始めました。実は、学童保育ともう一つ、3～6歳児の保育園を始める計画もあったのです。当社の保育園は0～2歳児までの受け入れなので、そこから小学校入学までの3～6歳児の受け入れもしたい、0歳から小学生までずっと繋がるようにしたいと。ですが現在、市内の待機児童は大方解消されている状況ですので、この計画は一旦休止となっています。

発達支援と学童保育に取り組むにあたって、1階部分にあったタクシー車庫を



『放課後児童クラブ にじいろキッズ』

数はまだ少ないので、もう少し増やしていきたいですね。保育園と同じく、乗務員だけでなく地域の方たちのお子さんも入園可能です。

観光事業にも更に力を入れていきたいですね。昨年11月に総合旅行業務取扱管理者の国家試験に合格しまして、香川県での旅行業務の登録をし、スタートさせたところです。観光事業に取り組む上で、乗務員の英語教育を実施したり、東京で研修を受けたりしています。

高松市の既存観光拠点の再生・高付加価値化推進事業【交通連携型】事業が採択されたので、ドライバーがインバウンド対応の経験を積む機会となるよう、これから発展させていこうと思っています。他にも、観光アプリの作成や、ホームページの整備なども計画しています。保育園に頼らないタクシー事業の明かりが見えてきた気がしますね。こうした継続する取り組みによって、地域のためにシルバーサポートタクシーも続けていける。全ての事業がこれから良くなる予定です。

私は新しいものを取り入れることに抵抗のないタイプ。やってやれないことはない。今回お話したシルバーサポートタクシー、発達支援や学童などの新しい事業についても、事業計画を練り上げ市場調査を行い、5年先までのものをしっかりと準備した上で、初めてのチャレンジであっても8割成功すると思えばやってみる。補助制度も計画段階で事業ごとにしっかり確認し、他の企業の好事例も勉強させていただいたりします。



公共交通機関を所管している当局に対して、ご意見・ご要望はございますか？

まず、ドライバーの確保が重要な問題です。今の社会の状況では、高齢ドライバーばかりで、若いドライバーが入ってこない。運賃の見直しが必要だと感じます。良いドライバーを雇用するためには、良いお給料も大切です。ドライバーの高齢化がこのまま進んでいくと、事故の心配などで安心して乗車できないかもしれない。運賃を上げることにに対して色々意見は出てくるでしょうが、自分たちが安心して乗車できる環境を整備するためには、若いドライバーが働けるような環境を提供することが必要ではないでしょうか。電車の運賃に関しては、都会は安く四国は高い。一方タクシーに関しては、四国は都市部より安く、逆になっている。電車とタクシーでなぜ違うのかと不思議です。お客様が少ない分コストがかかるので、都市部よりも高くないと。タクシー業界は、東京の値上げのタイミングに合わせるのではなく、その地方ごとの正当な運賃を定めていくべきなのではと思います。タクシードライバーになって夜中まで働こうという若い人はなかなかいません。高齢者も健康面で深夜まで働けない現実があります。若い人たちを雇用するために、若い人たちが働こうと思える仕事をしなくては。シルバーサポートタクシーや観光面に力を入れることによって、日中の仕事を充実させ、若いドライバーを雇用できるようにと考えています。



インタビュー中の住谷幸伸社長



平成レッグス株式会社本社

他には、ユニバーサルタクシー導入のための補助金も必要ですね。経営状態を考えると、多額の費用をかけての設備投資は難しい。ユニバーサル社会を目指し

ていくのであれば、本来はユニバーサルタクシーを導入すべきだと思いますが、現行の補助率ではなかなか手が出せないのが実情です。

待機児童の問題に取り組んだ時のように、予算措置など配慮していただいて、全国各社で導入できるようになることで、バリアフリー化が進み、社会が変わっていくのではないのでしょうか。

### インタビューを終えて

社会的課題をビジネスで解決していきたいと熱く語る住谷社長のチャレンジ精神と、地域への思いで、様々な事業がうまく循環し、よりよい方向に向かっていると感じました。

高齢者や子育て中のお母さんなど全ての世代が、これからもずっとこの街に住み続けたいと思えるように。安全便利なタクシー、子供たちが安心して成長できる場所、そして地域を盛り上げる観光と平成レグスさんの挑戦は続きます。

インタビュー実施日：令和4年7月7日（木）／聞き手：山岡・廣瀬・戸田